

ISSN 1882-0468

ISSN-L 1882-0468

NDL 書誌情報ニュースレター

2010年1号(通号12号)

目次

書誌データのプロダクト提供サービスが変わります (収集・書誌調整課 書誌調整係)	1
ISSN-Lをご利用ください! (逐次刊行物・特別資料課 整理係)	3
2009年の書誌データ統計 (収集・書誌調整課 書誌サービス係)	6
コラム: 書誌データ探検 件名(4) 件名標目はウェブの中へーセマンティック・ウェブ、トピックマップ… (収集・書誌調整課 白石啓)	10
お知らせ: NDL 書誌情報ニュースレターのレイアウトをリニューアルしました (NDL 書誌情報ニュースレター編集委員会)	12
掲載情報紹介	12
編集者からの一言	14

書誌データのプロダクト提供サービスが変わります

2012年1月より、JAPAN/MARC等のプロダクト提供サービスが変わります。書誌データのフォーマットをMARC21に変更し、文字コードをUnicodeとします。

国立国会図書館は、国の全国書誌作成機関として、高品質なデータの効率的作成および書誌データの標準化に資することを目的に、JAPAN/MARC等のプロダクトにより書誌データの提供を行ってきました。JAPAN/MARCは「国立国会図書館ジャパン・マーク審議会」の審議を経て決定された当館独自のフォーマットであるJAPAN/MARCフォーマット[1]により提供しています。

さまざまな機関や図書館にこのサービスをご利用いただいておりますが、国境を越えて書誌データが流通するようになった現在においては、提供データのフォーマットや収録範囲、使用文字コード等が課題となっています。

当館では、2012年1月に業務システムをリプレースします。これを機に、データの国際的な提供や交換をより円滑にするため、提供フォーマットを事実上の国際標準であるMARC21[2]とし、データの収録範囲や文字コードの見直しを行います。

また、当館が論文単位の情報の効率的な検索・入手に資するために作成している雑誌記事索引データの提供サービスに関しても、MARC21フォーマットまたはそのXML版に変更する予定です。

以下、プロダクトごとに収録対象と主な変更点をまとめました。

1. JAPAN/MARC (M) (S)

当館が収集した国内刊行出版物および外国刊行の日本語出版物のうち、JAPAN/MARC(M)は単行資料、JAPAN/MARC(S)は逐次刊行資料の書誌レコードを収録しています。

【変更点】

(1) MARC21 フォーマットによる提供を原則とします。

ただし、JAPAN/MARC 利用機関における利用の継続性を担保するため、当面の間 JAPAN/MARC フォーマットでの提供も継続します。また MARC21 フォーマットから JAPAN/MARC フォーマットへの変換サービスまたは変換ツールを用意します。

(2) 多言語に対応するため、文字コードは Unicode とします。

ただし、当面の間継続する JAPAN/MARC フォーマットによる提供サービスにつきましては、文字コードを JIS コードとします。

(3) Unicode の採用に伴い、これまで収録できなかった国内で刊行されたアジア言語資料等を収録対象に含めます。

ただし、当面の間継続する JAPAN/MARC フォーマットによる提供サービスにつきましては、文字コードが JIS コードであるため、アジア言語資料等は収録対象に含めません。

(4) 当館書誌 ID を提供データに含めます。

書誌データを一意に識別するための共通の識別子として、全国書誌番号(JP 番号)に加え書誌 ID を提供します。書誌 ID とは、[国立国会図書館蔵書検索・申込システム \(NDL-OPAC\)](#) で提供しているすべての書誌データに対する識別子です。

なお、書誌 ID の提供は、他の変更を先行して 2010 年 4 月から開始します。

(5) フォーマット等の変更を受けて、従来のプロダクト名「JAPAN/MARC(M)(S)」から名称を変更します。

2. JAPAN/MARC (A)

現在、JAPAN/MARC(A)には、JAPAN/MARC(M)(S)に収録されている書誌レコードに付与した著者名（個人名および団体名）の典拠レコードを収録しています。

【変更点】

- (1) MARC21 フォーマットによる提供を原則とします。
- (2) 文字コードは Unicode とします。
- (3) 収録対象を拡大し、固有名主題標目として付与する統一タイトル名典拠、個人名典拠、団体名典拠、家族名典拠を含めます。
- (4) フォーマットの変更を受けて、従来のプロダクト名「JAPAN/MARC(A)」から名称を変更します。

3. 雑誌記事索引

【変更点】

- (1) MARC21 またはその XML 版での提供とします。
- (2) 文字コードは Unicode とします。

以上、現時点での想定をお知らせします。ご不明な点がございましたら、収集書誌部 収集・書誌調整課 書誌調整係（ダイヤルイン：03-3506-3362 E-mail：syosil@ndl.go.jp）までお問い合わせください。

今後も、当館の書誌データの提供サービスをどうぞご利用ください。

(収集・書誌調整課 書誌調整係)

[1] JAPAN/MARC のフォーマットについては以下をご参照ください。

国立国会図書館. “JAPAN/MARC マニュアル・フォーマット”.

<http://www.ndl.go.jp/jp/library/data/jm.html> (参照 2010-03-08) .

[2] MARC 21 のフォーマットについては以下をご参照ください。

Library of Congress. “MARC 21 Format for Bibliographic Data”.

<http://www.loc.gov/marc/bibliographic/ecbdhome.html> (accessed 2010-03-08) .

Library of Congress. “MARC 21 Format for Authority Data”.

<http://www.loc.gov/marc/authority/ecadhome.html> (accessed 2010-03-08) .

ISSN-L をご利用ください！

2010年2月より、NDL-OPACでISSN-Lを利用した資料の検索が可能になりました！

Linking ISSN (ISSN-L) の概要と付与方法は、本誌の2007年3号の記事「[Linking ISSN \(ISSN-L\) の動向について](#)」でお伝えするとともに、同時期に『[情報管理](#)』誌上でも紹介しています[1]が、それから2年を経て、ISSN-Lが[国立国会図書館蔵書検索・申込システム \(NDL-OPAC\)](#)でご利用いただけるようになりました。

【ISSN-L の意義】

ISSNは、逐次刊行物に付与される、タイトルおよび媒体と一対一で対応する番号です ([ISSN 日本センター](#)のページを参照)。『[国立国会図書館月報](#)』のページを見ると、「(冊子版)ISSN 0027-9153」「(オンライン)ISSN 1349-3027」と表示されています。『国立国会図書館月報』の冊子版とオンライン版とは、タイトルも内容も全く同じです。しかし、ISSNは媒体ごとに別の番号をつける必要があるため、両者には異なったISSNを付与しています。

このようにISSNの利点は、タイトルだけではなく媒体も区別して検索できる点にあります。しかし、逆に言えば、ISSNだけでは同じ内容の刊行物について異なる媒体も含めて検索することはできません。

ISSN-Lは、この問題点を補うため国際規格に加えられました。『国立国会図書館月報』の例では、冊子版とオンライン版ともに、ISSN-Lは「0027-9153」となります。ISSN国際センターのデータベース「[ISSN Portal](#)」(要登録、有料)では2008年9月末からISSN-Lによる検索が可能です。ISSN-L「0027-9153」で検索すると、『国立国会図書館月報』の両方の媒体の版を検索結果として得ることができます。

【ISSN-L の確認と検索】

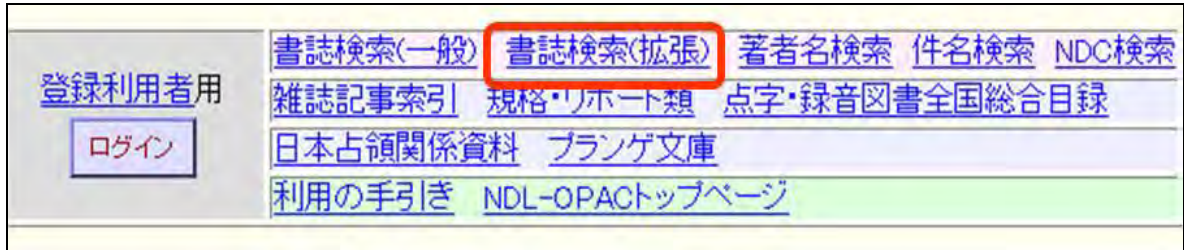
国立国会図書館では、以下三つのサービスより、ISSN-Lの確認や検索ができます。

1. NDL-OPAC

NDL-OPACでは、ISSN日本センターで担当している逐次刊行物について、検索結果からISSN-Lを確認できます。たとえば『三菱重工技報』のNDL-OPAC検索結果には、次のようにISSN-Lが表示されています。

書誌情報 電子資料(1/1件目)	
請求記号	YH247-483
資料種別	電子資料
タイトル	三菱重工技報
電子的内容	データ (中略)
ISSN	1881-4395
ISSN-L	0387-2432

NDL-OPAC では、逆に ISSN-L から検索することもできます。まず右上のボックスから、「書誌検索 (拡張)」をクリックします。



異なる媒体のものを含めて検索するため、検索対象として「和雑誌新聞」「洋雑誌新聞」「電子資料」にチェックを入れます。

「標準番号」の欄に ISSN-L を入力します。ハイフンは入れなくても構いません。

このように検索すると、ISSN-L 0387-2432 を共有する、紙媒体と電子資料の 2 つの検索結果が表示され、「ISSN Portal」と同様に両方の媒体の書誌情報を入手できます。

和雑誌新聞 1-1(1件)

1. [三菱重工技報 -- 三菱重工業, 1964-](#)
所蔵 1巻1号(通巻1号)(昭和39年)~

電子資料 1-1(1件)

1. [三菱重工技報 \[電子資料\] -- 三菱重工業技術企画部業務グループ, 2006-](#)
所蔵 v. 43, no. 1 (2006)-

2. 日本全国書誌

国立国会図書館で新規に逐次刊行物として整理する所蔵資料のうち、事前に ISSN 登録申請のあった刊行物については、NDL-OPAC への掲載よりも約 1 か月早く公開される『[日本全国書誌](#)』にも 2010 年 4 号以降 ISSN-L を掲載しています。

熊本高等専門学校研究紀要 [電子資料] = Research reports of Kumamoto National College of Technology / 熊本高等専門学校編. -- CD-ROM版. -- テキスト・データ. -- 1号(2009)-. -- 八代: 熊本高等専門学校, 2009-. -- CD-ROM; 12cm
刊行頻度: 年刊
ISSN 1884-6742
ISSN-L 1884-6734
JP: 01024800

3. ISSN 登録国内刊行オンラインジャーナルリスト

オンラインジャーナルは、現在 NDL-OPAC から検索できませんが、試験的に「[ISSN 登録国内刊行オンラインジャーナルリスト](#)」として、オンラインジャーナルの書誌データを TSV 形式で提供しています。この項目には ISSN-L も含まれます。

【ISSN-L の今後】

ISSN-L を活かすためには、媒体の異なる版を網羅的に NDL-OPAC で検索できることが重要です。NDL-OPAC への ISSN-L 登録 は、その最初の一步です。しかし残念ながら、現在の NDL-OPAC ではオンラインジャーナルを収録していないため、ISSN-L を十分に活かせていません。この点については、将来の解決に向けて検討を進めてまいります。

また、資料に ISSN-L を表示し、各種検索システムでのデータ項目・検索項目に ISSN-L を追加することに、みなさまのご協力を頂戴できましたら、ISSN-L はより十全に活用できるようになります。ご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(逐次刊行物・特別資料課 整理係)

[1] 小山 順一郎. “ISSN (国際標準逐次刊行物番号), ISSN ネットワークと日本センター: : 紹介と今後の課題について”. 情報管理. Vol. 50, No. 3, (2007), 144-154 .

http://www.jstage.jst.go.jp/article/johokanri/50/3/50_144/article-char/ja, (accessed 2010-03-08).

2009年の書誌データ統計

日本全国書誌、JAPAN/MARC に、2009年1年間に収録した書誌データの件数、および過去5年間の推移を統計としてまとめました。また、2009年12月末現在、[国立国会図書館蔵書検索・申込システム \(NDL-OPAC\)](#) に収録している書誌データの累計 (全体の件数) も表にしました。

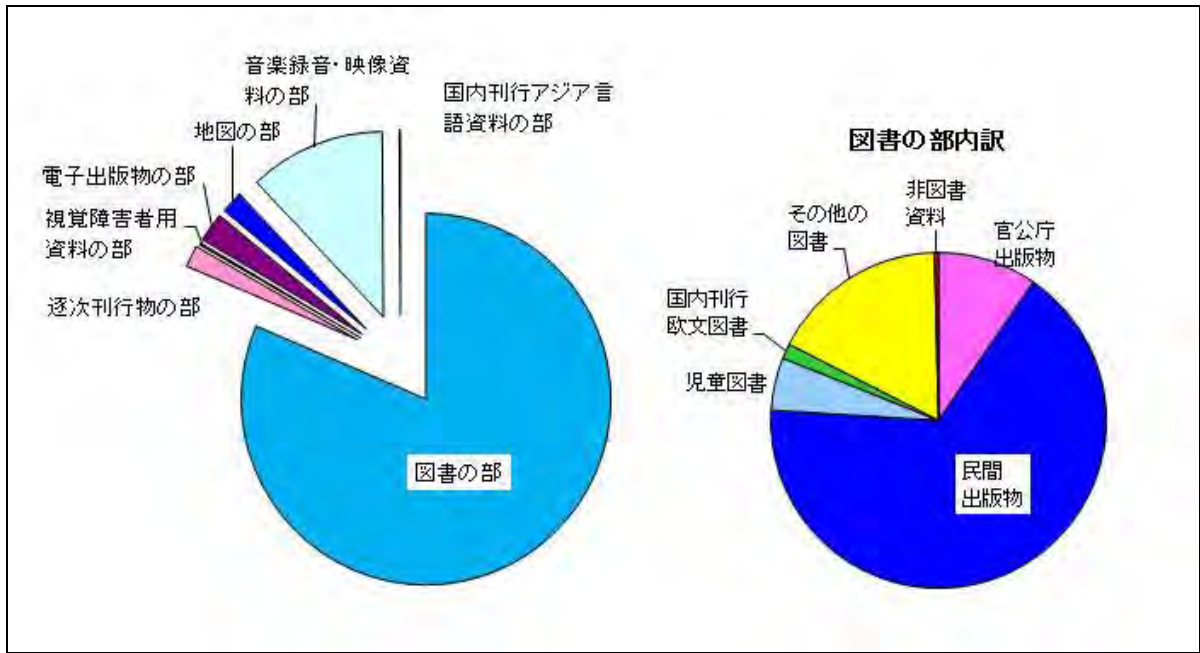
1. 日本全国書誌

国内で出版された刊行物の目録として、年50回[ホームページにHTMLテキスト形式で掲載](#)しています。国立国会図書館が納本制度等によって新規に収集し、整理した国内出版物を収録対象としています。

日本全国書誌 2009年1～50号 (通号 2710～2758号)

収録総件数	163,530
1号平均*	3,337
1～50号 部編別内訳	
図書の一部	133,215
官公庁出版物	12,759
民間出版物	88,447
児童図書	6,778
国内刊行欧文図書	1,911
その他の図書	22,820
非図書資料	500
逐次刊行物の部	3,060
視覚障害者用資料の部	283
電子出版物の部	4,163
地図の部	3,154
音楽録音・映像資料の部	19,483
国内刊行アジア言語資料の部	172

*2009年は37・38号を合併号として49回刊行したため、49号分の平均となっています。



グラフ 1 : 2009 年日本全国書誌の内訳

* [過去 5 年間の日本全国書誌収録件数のグラフは以下に掲載しています。](#)

2.JAPAN/MARC (J/M)

書誌データを MARC (機械可読目録) フォーマットによって頒布しているものです (媒体は CD-R)。購入機関が、それぞれのデータベースに登録し、利用することができます。国内刊行図書および非図書資料は、JAPAN/MARC (M) として年 50 回更新、国内刊行逐次刊行物は、JAPAN/MARC (S) として年 2 回更新しています。日本全国書誌に収録した書誌データに加えて、遡及入力^[1]した国内刊行物の書誌データも一部収録対象としています。

また、著者名典拠データを JAPAN/MARC(A)として年 2 回更新しています。

JAPAN/MARC(M)収録件数 2009年1~50号

収録総件数	173,411
1号平均	3,539
JP番号	21511721~21685277

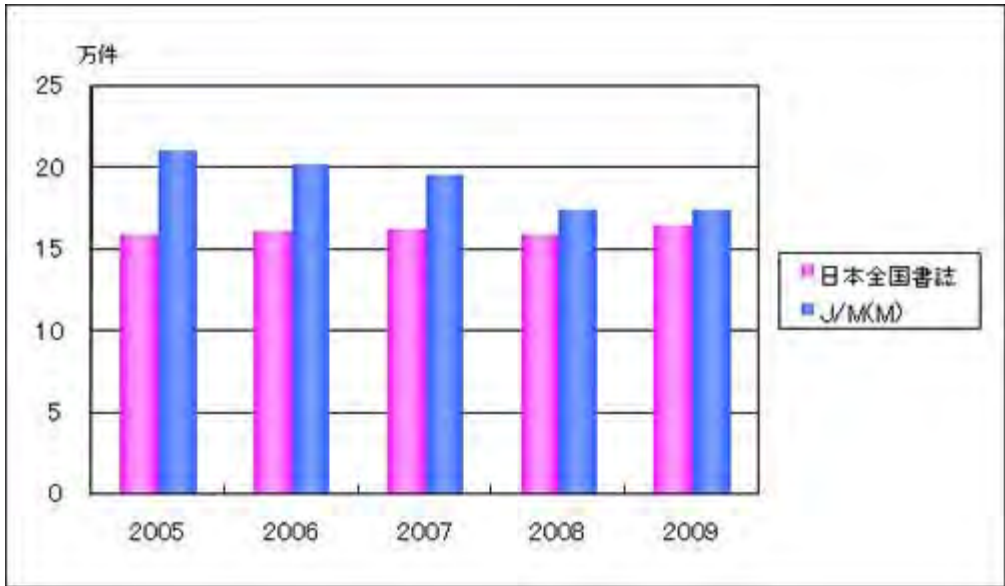
* 2009 年は 37・38 号を合併号として 49 回刊行したため、49 号分の平均となっています。

JAPAN/MARC(S)収録件数 2009年12月末現在号

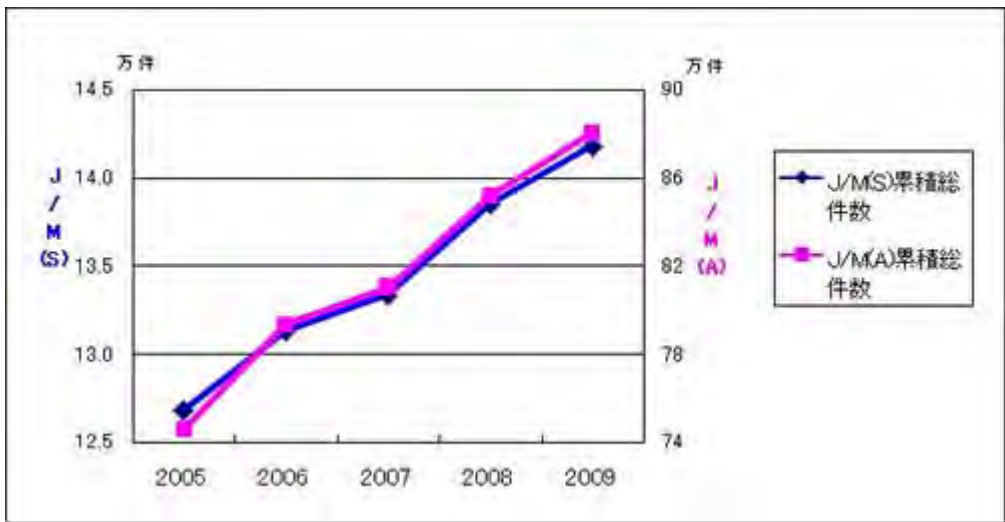
累積総件数	141,772
-------	---------

JAPAN/MARC(A)収録件数 2009年12月末現在

累積総件数	880,167
-------	---------



グラフ 2 : 過去 5 年間の日本全国書誌・J/M (M)収録件数



グラフ 3 : 過去 5 年間の JAPAN/MARC(S)と JAPAN/MARC(A)の累積総件数

3.NDL-OPAC (国立国会図書館蔵書検索・申込システム)

国立国会図書館の蔵書検索システムとして、日本全国書誌、JAPAN/MARC に収録した書誌データだけでなく、国内の博士論文、文部科学省科研費報告書、各種洋資料の書誌データ等も収録しています。日本全国書誌に収録した書誌データは、和図書の場合は約1週間後にNDL-OPACに反映されます。

冊子体の雑誌記事索引の遡及入力終了し、2009年3月には当館で作成した雑誌記事索引がすべてNDL-OPACで利用できるようになりました。4月には館内端末でのみ利用可能だった[日本占領関係資料とプランク文庫をインターネット上で検索できるようになりました](#)。

また、2月にはNDL-OPACの書誌データを[ダウンロードできるサービス](#)を開始、9月には[リンクリゾルバを導入](#)し、NDL-OPACの機能面も充実させています。

NDL-OPAC 累積件数 2009年12月末現在

		データ種別	更新頻度	件数
書誌 (雑誌記事索引を含む)	書誌	和図書	週次	3,866,291
		洋図書	週次	1,162,390
		和雑誌新聞	週次	142,054
		洋雑誌新聞	週次	57,762
		電子資料	週次	38,558
		和古書・漢籍	週次	67,292
		博士論文	月次	563,908
		地図	週次	199,042
		音楽録音・映像資料	週次	572,915
		蘆原コレクション	月次	67,719
		規格・テクニカルリポート類	月次	2,819,322
		点字図書・録音図書全国総合目録	月次	438,763
		日本占領関係資料	月次	296,587
		プランゲ文庫	月次	32,227
		小計 (件)		
雑誌記事索引			週次	9,617,606
計 (件)			19,942,436	
典拠	著者名	個人名	週次	714,317
		団体名	週次	166,386
		小計 (件)		
	件名	個人名	週次	37,469
		団体名・地名	週次	46,074
		家族名	週次	2,040
		統一タイトル	週次	3,482
		普通件名	週次	95,511
	小計 (件)			184,576
	計 (件)			1,065,279

(収集・書誌調整課 書誌サービス係)

[1] 遡及入力とは、紙媒体のカード等によって作成されていた目録を、コンピュータに入力することを指します。JAPAN/MARCの年間の収録件数は、日本全国書誌の年間の収録件数だけでなく、その年の遡及入力の実施状況によっても変動します。2009年には、映像資料約2,100件等を遡及入力しました。

コラム：書誌データ探検 件名(4)

件名標目はウェブの中へ—セマンティック・ウェブ、トピックマップ…

件名コラムの最終回となる今回は、件名標目の「利用」や「提供」のこれからに関するお話です。件名標目がウェブとつながることによる、多言語シソーラスの構築や Wikipedia と件名標目との連携といった可能性についてご紹介します。

まず、前回までのコラムを簡単に振り返ってみましょう。[1回目のコラム](#)では、件名標目の概要に触れ、検索エンジン顔負けの件名標目の機能をご紹介しました。[2回目のコラム](#)では、先生と助手のやりとりを通じて、件名標目が生まれるまでの流れを追いました。[3回目のコラム](#)では、少し踏み込んで、細目をつなげる統語論（シンタックス）レベルの統制について取り上げました。

以上のコラムの内容から「件名標目は、うまく使えば非常に便利なツールだ。テーマから資料を的確に検索できそうだ」と思われた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

しかし、件名標目は、図書館外の方々にはあまり利用されていないのが現状です。なぜでしょうか。理由としては以下が考えられます。

どんな件名標目があるのかを知っていなければうまく使えない

図書館員のように「このテーマに関する本には確かこの件名標目が付与されているはず」とわかるユーザにとっては、件名は強力な検索の武器になります。しかし、知らないユーザにとっては、とりあえずフリーキーワードでタイトルを検索するしかありません。「こんな件名もあるよ」とそっと教えてくれるような機能など、検索のインタフェースがより使いやすいものになれば、件名標目をを用いて資料の検索をより効率的に行えるかもしれません。

図書館システム以外では機能できていない

当館の件名標目である NDLSH は、残念ながら[国立国会図書館蔵書検索・申込システム \(NDL-OPAC\)](#) というシステム内でしかその実力を発揮できないのが現状です。シソーラスの整った主題語彙集で、ウェブ上で自由に使えるものはほとんどありません。NDLSH を NDL-OPAC というシステムの枠内に閉じ込めるのではなく、データとして扱いやすい形式でウェブ上に公開すれば、NDLSH の機能が図書館以外のさまざまなシステムやサービスに活用されるかもしれません。

上記を解決する手法として、このコラムでは以下二つのアプローチについてご紹介します。

1. セマンティック・ウェブ化

「セマンティック・ウェブ」とは、次世代ウェブの構想で、情報リソースにメタデータを付与し、関連情報を URI (Uniform Resource Identifier) という識別子を用いて情報リソース同士を結びつけ、それらをコンピュータが自動的に処理することで、より高度な情報探索を行おうという構想です。すでに英国政府関連データに無料でアクセスできるウェブサイト“[data.gov.uk](#)”や、論文情報を検索することのできる [CiNii](#) では、セマンティック・ウェブ上で扱える形式でメタデータを記述す

る枠組みである [RDF \(Resource Description Framework\)](#) を用いたサービスが始まっており、今後普及していくと思われます。

「セマンティック・ウェブの技術を用いて、図書館の持つリソースをウェブ上で提供しよう」という動きは世界各地で起きており、中でも注目されているのが [SKOS \(Simple Knowledge Organization System\)](#) です。SKOS とは、シソーラスや分類表等、図書館的な情報リソースをセマンティック・ウェブ上で扱える形式で記述する枠組みで、W3C 勧告となっています。LC (米国議会図書館) は、すでに LCSH (米国議会図書館件名標目表) を SKOS 形式で提供するサービス “[Authorities & Vocabularies](#)” を始めており、日本でも、[PORTA による試験提供](#) や、[HANAVI](#)、[Namespace for RDF representation of NDLSH](#) 等、NDLSH を SKOS 形式で提供する実験が行われています。

2. トピックマップ化

トピックマップとは、記号化された知識を、関連する情報リソースに結びつけるための技術で、情報リソースから独立した形で概念間の関係を定義するものです。知識全体を **Topic** (トピック。問題領域でのキーとなる主題群を表現するもの)、**Association** (関連。主題間 (トピック同士) の関係を表現するもの)、**Occurrence** (出現。主題に関連する情報リソースへのリンク) という三つの構成要素によってマップ化して表現する技術で、主題同士の関係を視覚的に把握することができます。

セマンティック・ウェブが「コンピュータによる自動的な処理」を志向しているのに対し、トピックマップが「あくまで人が概念間の関係を理解しやすくすること」を志向している点で、両者は異なります。しかし、トピックマップと RDF を相互に変換するツールも出てきており、トピックマップとセマンティック・ウェブの連携が進んでいくかもしれません。

日本では、「[知のコンシェルジュ](#)」というサービスでトピックマップが用いられています。また、2009年7月に、トピックマップの開発・運用環境である [ontopia](#) がオープンソースとなり、トピックマップを取り巻く動きが活発になりつつあります。2010年1月22日には「[TMJP2010 トピックマップ適用事例発表会](#)」が東京で開催されました。内藤求氏による NDLSH・BSH・LCSH のトピックマップ化に関する発表や、研谷紀夫氏による人名典拠情報のトピックマップ化に関する発表など、図書館リソースをトピックマップで表現する実験について報告が行われました。

コラムの最後に、NDLSH を、上記のようなウェブ上で活用しやすい形式で公開するとこんなことが実現できるかも? という内容をご紹介します。

- ・ LCSH、RAMEAU といった他の主題語彙集と連携した、多言語シソーラスの構築
- ・ NDLSH データを用いて、さまざまなウェブ・サービスとのマッシュアップ
- ・ Wikipedia 等他の辞書的リソースとの連携、NDLSH のシソーラス構造を用いて、辞書的リソースの階層化・構造化
- ・ ソーシャル・タギングと連携し、ユーザが自由に付けたタグと NDLSH の結び付け

ウェブの世界は、「他人のフンドシを使って相撲をとる世界」とたとえることができます。自前ですべてをまかなうのではなく、他者のサービスやデータをうまくミックスして、新たな価値を創造する世界であるということです。図書館は信頼性の高いリソースをたくさん持っています。図書館リソースが、ウェブ上でよく使われる「フンドシ」となれるよう、当館もデータやサービスの提供の仕方を工夫していきます。

白石 啓

(しらいし けい 収集・書誌調整課)

お知らせ：NDL 書誌情報ニューズレターのレイアウトをリニューアルしました

NDL 書誌情報ニューズレターのレイアウトをリニューアルしました。これまですべての記事を一つのページに収録してきましたが、今号からは記事ごとにページを用意し、記事単位でのブックマークやリンクをやすくしました。また、全文の一覧と印刷がしやすいように PDF 版も掲載しました。

現時点では、今号のみ新しいレイアウトで掲載しておりますが、過去に掲載した分につきましても、順次新しいレイアウトに変更していく予定です。

今後も読みやすい広報誌を目指して参りますので、NDL 書誌情報ニューズレターについて、ご要望・ご意見などございましたら、編集委員会 (E-mail : bib-news@ndl.go.jp) までご一報いただけますと幸いです。これからもご愛読のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(NDL 書誌情報ニューズレター編集委員会)

掲載情報紹介

2009年12月26日～2010年3月31日に、国立国会図書館ホームページに掲載した書誌情報に関するコンテンツをご紹介します。

- ・ [「日本全国書誌の在り方に関する検討会議」の概要を掲載](#)

2010年3月3日、日本全国書誌とその機械可読版である JAPAN/MARC が広く活用され、一層普及することを目的として、関係機関の代表により日本全国書誌の在り方に関する検討会議を開催しました。会議の概要については「[日本全国書誌の在り方に関する検討会議について](#)」をご参照ください。

(掲載日：3月12日)

・ [「図書館向け更新情報」のRSS配信を開始](#)

「[図書館へのお知らせ](#)」の「[図書館向け更新情報](#)」でRSS配信を開始しました。「[書誌データの作成および提供](#)」のページの更新情報も随時こちらに掲載しておりますので、ご関心のある方は、是非こちらのサービスをご利用ください。

(掲載日：1月13日)

・ [平成21年度書誌調整連絡会議の会議報告を掲載](#)

2009年11月25日(水)に当館で開催した「平成21年度書誌調整連絡会議」の会議記録を掲載しました。

(掲載日：2月12日)

・ [「日本目録規則1987年版改訂3版」和古書適用細則を掲載](#)

日本目録規則1987年版改訂3版」和古書適用細則を掲載しました。和古書適用細則の改訂をもって、すべての適用細則が「日本目録規則1987年版改訂3版」に対応しました。

(掲載日：1月8日)

・ [NDL-OPACでISSN-Lの表示・検索が可能に](#)

NDL-OPACでISSN-Lの表示・検索が可能になりました。詳細につきましては、今号の記事「[ISSN-Lをご利用ください!](#)」をご覧ください。

(掲載日：2月1日)

・ [国立国会図書館件名標目表\(NDLSH\)2008年度版追録\(2009年12月～2010年2月\)](#)

2009年12月～2010年2月に更新した件名標目のリストです。各月に新設した件名には以下のものがあります。

2009年12月：「炬燵」「災害救助犬」「ソフトコンピューティング」など

(掲載日：1月18日)

2010年1月：「子犬」「戦国時代(日本)」「廃墟」など

(掲載日：2月8日)

2010年2月：「インフルエンザ脳症」「合戦」「マイクロブログ」など

(掲載日：3月23日)

・ [NDL-OPACに関するプレゼンテーションの映像を掲載](#)

2009年10月29日に開催した「国立国会図書館(NDL)データベースフォーラムー確かな情報へのナビゲーターー」において行った、[NDL-OPAC](#)に関するプレゼンテーション「<第2部>本や雑誌を探すーどんなものでも、どこにあってもー」の録画映像の配信を開始しました。

(掲載日：1月13日)

・ [ISSN登録国内刊行オンラインジャーナル書誌データを更新](#)

今号の記事「[ISSN-Lをご利用ください!](#)」でもご紹介しております「ISSN登録済オンラインジャーナルリスト」を更新しました。こちらのリストは、3か月に一度更新をしています。

(掲載日：2月5日)

・ [アジア言語OPACにタガログ語図書の書誌データを公開](#)

[アジア言語OPAC](#)で、タガログ語図書の書誌データを公開し、インドネシア語・マレーシア語の書誌データを追加しました。

(掲載日:2月9日)

・ [PORTAの雑誌記事索引検索に2002年以前分のデータを追加](#)

雑誌記事索引については、今まで2003年以降作成分のデータのみ公開していましたが、このたび2002年以前作成分を追加しました。なお、「科学技術編遡及入力データ」については対象外となっています。

(掲載日:2月2日)

・ [雑誌記事索引採録誌一覧を更新](#)

当館が作成している雑誌記事索引に、現在記事を採録中もしくは過去に採録したことのある雑誌の一覧を更新しました。2010年2月9日現在の採録誌総数は19,388誌で、そのうち、現在採録中のものは10,101誌、廃刊・採録中止となったものは9,287誌です。

(掲載日:2月23日)

編集者からの一言

今号からの「編集者からの一言」では、前号までの「編集後記」と少し内容を変え、記事の内容と自分の業務を絡めてご紹介します。

私の担当は「書誌データの提供」です。JAPAN/MARCの各機関への配布、日本全国書誌の作成、国立国会図書館蔵書検索・申込システム(NDL-OPAC)の改修などに携わっています。今回の記事でも、プロダクトの提供サービスを2012年から変更すること、ISSN-Lの検索が可能になったこと、2009年の書誌データ統計など、書誌データの提供に関する記事があります。

書誌データの世界にも日々変化があります。使いやすさや世界的な潮流を考え、提供方針を見直す必要がある一方、これまでの書誌データの利用者に対する配慮も必要です。

この両者のバランスを取りつつ、なるべく多くの方に使っていただけるような書誌データの提供ができるよう、日々工夫を重ねています。その様子を今号の記事から感じとっていただけますと幸いです。

(収集・書誌調整課 書誌サービス係 皇帝人鳥)

NDL 書誌情報ニュースレター(年4回刊)

2010年1号(通号12号) 2010年3月31日発行

ISSN 1882-0468/ISSN-L 1882-0468

編集・発行 国立国会図書館収集書誌部収集・書誌調整課

〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1

E-mail: bib-news@ndl.go.jp (ニュースレター編集担当)